

「生き方によって選びを示す

～神の羊の群れを牧しなさい～

I ペテロ 5:1-11

■ 干渉か愛の行動か (I ペテロ 4:12～15 先週のおさらい)

良いことをしていたつもりだけど、私がしていることは愛か干渉かと考えることがあります。それは、その人のためにすることなのか、自分のためにすることなのかで判断できます。

悪魔は多くの人に働きイエスを十字架にかけました。キリストの十字架は、邪魔者を排除したもののようには思いますが、神の愛として今も生きています。愛は無駄に思えるかもしれませんが、その人のための100パーセントの愛の思いならば、必ず実を結びます。

■ 父なる神様の思い

父の日は父の心を知る日です。また、父としてどう生きていくかを考える日でもあります。人間でも、父が子どものことを思う気持ちがあります。父なる神様の本当の思いはどんな思いでしょうか。

南アフリカの国立公園では、動物達がお金のために虐殺されるので動物の保護区を作りました。そして保護すべく動物たちが集められました。その時、象は若い象だけを集めました。すると年老いた象から学ぶべきことが学べず若い象は、それぞれが勝手にふるまい、助け合うどころか殺し合い群れが崩壊し大問題となりました。そこで、群れに年老いた象を連れてくると一瞬にして問題は解決しました。年老いた象が生き方をもって若い象に教えたのです。象の群れの話から教会の組織の作り方を学ぶことができます。神という長老を中心においた教会が、正しい倫理観と正しい生き方を多世代の人が学ぶような組織になるように戻る必要があります。人は失敗をします。「私の羊を牧しなさい。」という御言葉は、ガリラヤ湖に現れたイエス様からの、失敗をした私達を赦すメッセージです。大切なのは、言葉で強制しようとするのではなく生き様を見せることです。

■ 神の羊の群れを牧しなさい

牧するとは生き様を見せることです。あなたに任された羊の群れを羊飼いがそこを去っても正しく生きていけるようにすることが大切です。鞭というのは、たたくものではなく、ここからは危険だと教訓を与えるものです。教会も同じです。してはいけないことだけを教えている場所です。志と目的がはっきりしているのならば、何をしてもよいのです。「これだけしてやるのに。」と利得を求めてはいけません。「してやった」ではなく「させていただいた」という思いが大切です。なぜなら、自分もしてもらったからです。自分がしようと思うことが妨害されたとき、私はこれだけしたのに！と虚栄の思いが出てきます。私達はこの思いに注意しなければなりません。聖書は、群れの模範となれと言っています。よい模範とは、自分が失敗したときに神の前に戻ろうとすることです。イエス様がどんな思いで十字架に向かったか思い浮かべて下さい。完璧な人はいません。私にはできないではなく、必要なのは決断することです。晩年ペテロはローマから逃げようとし、ペテロはイエス様の幻を見、私もローマに行きますという決断をします。決断しようとする姿、失敗したとき悔い改めようとする姿が大事です。

■ ノアから学ぶ ～思い煩いを全て神に委ね、神の言われたことを100%行う～創6:11～17

「地は、神の前に墮落し、地は、暴虐に満ちていた。」このような状況の中、「ノアは全て神様が命じられた通りに行った。」とあります。これが大事です。全部聞かないという人はいません。ちょっとだけ変えて行ってしまうのが私達人間です。悪魔の誘惑は、どんなものでしょうか。悪魔は聞きやすい言葉で私達を誘惑します。ノアも悪魔からの攻撃を受けたでしょう。しかし、ノアは神様の言われることを全て行いました。アブラハムも神様の言われることを100パーセント行いました。人間は若いうちは自分の力に頼って失敗することが多く、人から学ぶことが難しいことがあります。人間は、60～70代になるまでに10パーセントの能力しか使わないという研究結果があります。60～70代の人には自分の力に頼らなくなり、多くの人から学んでもてる能力を上手く使おうとするので、能力を発揮できるという結果だったそうです。モーセも80歳で30万人をエジプトから連れ出しました。年老いているからと言わず、神様の言われることを聞きました。神は、欲望を処理し、自分の愚かさを知っている人に役割を任せます。聖書ではそういう人を長老と呼びます。ちょっとだけ変えることをせず、全て神様が言われたようにする！ということ覚えていきましょう。

・ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。(ペテロ 5:6)

社会で批判を浴びているのなら、神の下にへりくだり、アンダースタンドの気持ちになりましょう。もし、上手くいかないことがあるのなら行動が干渉になっているのです。神様の愛のお節介は良いものですが、いらぬ干渉は問題です。自分に任されたことをし、神様の愛に生きていけるのなら、上手くいきます。

・思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。(ペテロ 5:7)

ノアは、何十年の間、多くの人から批判されたり馬鹿にされたりしてでしょう。また、洪水になったときには、多くの人々が船を取ろうと押し寄せたでしょう。そして、多くの思い煩いの中、全て神様に従うことを選びました。身を慎み、目をさましていなさい。(5:8)の箇所では、思い煩うこと、高ぶること、傲慢になること、するといったことをしないことがないかを心の目で見張っておくように言われています。だから、ペテロは、固く信仰に立って悪魔に立ち向かえと言っています。神は真実な人ですから試練と共に脱出の道を備えてくださっています。あなたがどんな境遇にあっても、聖書の中の長老から神に従うことを学びましょう。

・永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみのもとで完全にし、固く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。(5:10) 誰に何を言われても揺るがない、不動の者になると言われています。上手くいかない理由は、途中で止めるからです。上手くいくためには、諦めないことが大事です。神にあなたの魂を任せましょう。神が言われることを守りましょう。

■ 無名の伝道者 ジョージジェナー

「失礼ですが、あなたは救われていますか？もし今夜あなたが亡くなったら、天国に行けると思えますか？」

これはオーストラリアのシドニー(ジョージストリート)で、無名の伝道者として40年間、路傍伝道したジョージ・ジェナーさんのストーリーです。ある有名な牧師が一人の人の証を聞いたことから始まります。その人はジェナーさんという人にイエスキリストの話聞いて教会に来たと言いました。それに感銘した牧師はあらゆる所でその証をしました。するとあらゆる場所でジェナーさんから福音を聞いたという人が沢山いました。それも世界のあらゆるところにです。ジェナーさんは若いとき、同じ場所、同じ時間に伝道すると主に約束しました。ジェナーさんは若いとき海兵隊員として行ってきた放蕩生活をやめて、イエスを信じ、受け入れ、救いの恵みをお返すために、毎日10人に伝道すると心に決めました。しかし、その実を見ることはなく過ごしていました。そんなところに、その牧師がジェナーさんの所を訪ねたのです。ジェナーさんは40年経った今、何の実も結ばないで天国で主とお会いすることを悲しんでいましたが、牧師の奇跡のような話を聞いた瞬間、涙を流しながら主に感謝をささげました。

この出会いから2週間後、彼は喜びながら主のもとに帰って行きました。それから牧師は3年間の調査を行い、少なくとも146,000人が救われたという事実を知ったのです

言い訳を付けて言われたことをしなかったり、ちょっとだけ変えたりしていることはありませんか。大切なのは、主がせよと言われたことを死に至るまで忠実に行うことです。小さなことを忠実に神の言われる通りに行った人は栄光を与えられます。神の前に決断していきましょう。

最後に…

「失礼ですが、あなたは救われていますか。もし、今夜あなたが亡くなったら天国に行けると思えますか。」

最後まで私に従ったか、と聞かれたら、あなたは大丈夫ですか。神様はあなたにできることしかさせません。あなたが苦難のときには必ず助け手を与え、その声に聞けば、あなたは必ず乗り越えられます。ノアは、神様の言われたことを忠実に行いました。そしてノアは、人類の最初の基を築きました。罪とはちょっと的を外すことです。あなたは大丈夫ですか。誘惑に負けず、神に従っていきましょう。神は全焼のいけにえを見ているのではなく、全焼のいけにえを捧げようとする心を見えています。「どうか模範になる者となれますように、心をもった者にしてください、愛によって関わる者としてください。」と祈りましょう。

私達に任されている羊は誰ですか。私達が羊を牧することができるように、役割を明確にし、主に忠実に行う者となれますように。感情で揺れ動く心を取り去ることができるように祈りましょう。

(要約者:山本 洋子)

(2021年6月20日)